

1 2 月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比^{*}DI値の動き

30年12月のDI値は8指標中、「販売価格」と「取引条件」が小幅ながら上昇。「景況」と「設備操業度」は横這い。残り4指標においては下落となった。特に「収益状況」の悪化が顕著である。

2. 県内中小企業の景気の現状

家電製品小売業では季節商品の動きが順調であり、板金工事業においても、引き続き需要が好調であった様子。またその他の建設業や木材業においても受注量が増加しているとの明るい報告も寄せられた。

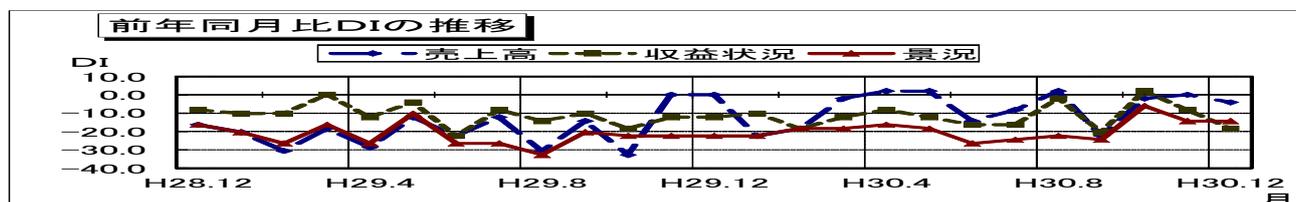
その一方で、期待された年末需要であったが、一部の業界からは売上の伸び悩みを嘆く声が寄せられた。また、慢性化する労働力問題をはじめ、依然として続く原材料高や軽油価格の高止まりが収益を圧迫しており、売上高増加も収益状況の好転に繋がっていない。

景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、米国に端を発する貿易摩擦懸念や、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H29 12月	H30 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前月比 増減
景況	-22.4	-22.4	-18.4	-18.4	-16.3	-18.4	-26.5	-24.5	-22.4	-24.5	-6.1	-14.3	-14.3	0.0
売上高	0.0	-22.4	-18.4	-2.0	2.0	2.0	-14.3	-8.2	2.0	-22.4	-2.0	0.0	-4.1	-4.1
収益状況	-12.2	-10.2	-18.4	-12.2	-8.2	-12.2	-16.3	-16.3	-2.0	-20.4	2.0	-8.2	-18.4	-10.2
販売価格	12.2	20.4	8.2	18.4	10.2	4.1	4.1	6.1	8.2	10.2	6.1	4.1	6.1	2.0
取引条件	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-2.0	-2.0	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	-4.1	-2.0	2.1
資金繰り	-4.1	-2.0	-8.2	-6.1	0.0	-4.1	-8.2	-14.3	-12.2	-12.2	-2.0	-4.1	-10.2	-6.1
設備操業度	-2.0	-2.0	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	-6.1	-8.2	-8.2	-10.2	-2.0	-6.1	-6.1	0.0
雇用人員	-14.3	-14.3	-18.4	-20.4	-18.4	-16.3	-14.3	-14.3	-14.3	-14.3	-8.2	-10.2	-14.3	-4.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・前年同月比、みその生産量は101.5%、出荷量は97.6%となった。前月比では生産量101.2%、出荷量102.3%と増加した。主要原材料の米の価格は国内産、米国産とも高値で推移しており依然コスト高である。米の需給が逼迫状況であり、高値水準は当面続く模様である。

<繊維・同製品>

2. 縫 製・相変わらず、雇用情勢の悪化が顕著であり、中小企業の人手不足が深刻化しつつある。特に、優良人材（幹部候補生）の獲得が大きな課題であるが、最近では、技術者不足も如実に表れ、採用が思うように進まない状況である。売上、収益については、秋冬については、夏季より改善傾向である。しかしながら、国内市場の頭打ちの感は拭えず、特に人口減少とする原因が大きく、将来の景気回復への見通しは引き続き厳しい。

3. 縫 製・市場の低迷。

<木材・木製品>

4. 木 材・12月の木材の状況については、10月、11月からほんの少しだけ回復基調が現れていたが、年末に近づけば近づくほど、その状況も鈍化してゆく状況だった。
5. 製 材・消費税増税に伴う需要も微かに見られるようだが、売上高の減少や在庫数量が増加しているところもあり、依然として荷動きが悪い状況が続いている。
6. 木 材・天候等により原木丸太出材量は増となっている。価格も強含みの状況で推移していて売れ行きも良い。一方、各製材所、製品市況厳しいとの声、未だ多く聞かれる中、原木高が経営の負担となっているが、手当て買いは旺盛な動きが続いている。

<印 刷>

7. 印 刷・例年12月は繁忙期のはずだが今期は一向に忙しくならない。11月から受注が減少傾向にある。大手量販店チラシなどの販促物は順調だが、地元流通業の販促物は低調である。パッケージ系の印刷物の受注は例年並みだが、情報伝達を目的とする印刷物は明らかに減少している模様である。製紙メーカー各社は年明けからの値上げが受け入れられ易いよう生産調整を行っており、用紙の手配も難しい場合が多くなってきた。
8. 印 刷・年末年始の休みを前に特需を期待したところだが、特に需要はなかった模様。また、12月は「ボーナス需要」「お歳暮」「年越し」「クリスマス」等のイベントが盛りだくさんあったがこれも新たな需要を生んでいなかった。新年は印刷の特長を生かし、それぞれを少しずつでも売上に積み重ね、新たな成長への糸口を見つけていかなければならない。

<窯業・土石製品>

9. 生 コ ン・12月は昨年同月と比較して約1割減少。現在の出荷量は特需工事が主体で、全体的には減少傾向にある。また11月以降災害関連工事が発注されたが、出荷は今後の工事の進行状況によって変わってくると思われるが、今月はまだ災害関連の出荷は少ない。
10. 生 コ ン・12月の出荷数量は、対前年同月比7%の減少となった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、官民での既存受注工事が順調に進んだが、新たな新規工事の減少が影響している。販売価格については、価格見直しにより上昇したが、原材料費が上がり売上増となったものの利益増にはつながっていない。

<鉄鋼・金属>

11. 鉄 鋼・業況感に大きな変化はなく、概ね横這い状況にある。引き続き、引き合いの増も見られるところではあるが、設備操業度などに大きな動きはない。全体的には、企業の生産動向は緩やかに増加していると言われているが、依然、海外経済情勢の不確実性に伴い、景気動向の先行き不透明感が懸念される場所である。
12. ステンレス・大手を中心として、好調な企業収益を背景に設備投資が続いているが、米中の貿易摩擦やイギリスのEU離脱問題などの世界経済への影響が懸念される状況があり、今後の先行きは不透明である。

<一般機器>

13. 機 械 金 属・全体として、売上高や引合いなど良好な水準を維持しており、景況感に大きな変化は見られない。ただ、一部に設備投資の動きもあり、業況の好転が見られる一方で、世界経済を巡る様々なリスクなど将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、引き続き、原材料価格その他の経費の増加、従業員の確保難などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

【非製造業】

<小 売 業>

14. 食 糧 卸・年末のもち米需要も昨年度より低下。
15. ショッピングセンター・売上高は前年対比全店計93.0%(既存店94.6%)、客数も93.0%(94.2%)だった。12月に入り冬らしい気温になったためか、10月と11月のように90%を切る事態は退避出来たが、まだまだ気は抜けない。先月、買物客の大型施設への流出について触れたが、12/1~12/25の間95.6%、12/26~12/31の間が92.0%となっている。(いずれも既存店のみ)。やはり家族揃っての買物は、少し遠くても市外の大型施設へと流れるのだろう。徳島県中央会様の補助(取引力強化支援事業)をいただき、1/1の販促強化をしたが、100%は達成出来なかったが、1/1のみの売上では96.4%と功を奏したと思う。
16. 電 気 機 器・12月1日からの4K8K BS放送開始も販売に対する大きな効果はなく、今後のイベントに期待か? エアコン・LED照明は順調な動きである。

17. 畳小売業・わりに暖かい12月のおかげで中頃までは、一般家庭の仕事もあった。飲食店などの営業用は、忘年会、新年会の予約などで2月にといいところがある。12月20日頃には年内仕事は終わっていた。ホームメーカーも現場が遅れ、1月納期になったところが多いようだ。
18. プロパンガス・今月も本格的に需要期に入ってくるので、保安文書周知の徹底とともに、未収金を回収することに努める。

<商店街>

19. 徳島市・年末商戦と思えない程、静か。各店早めのセールで対応するも厳しい年末であった。
20. 阿南市・クリスマスイベント実施も特に変化なし。

<サービス業>

21. 土木建築業・工務課は、H30年度予算が多く残っているため、去年より12月は忙しい。道管課においては、来年度補修工事を多く発注するため、去年より12月は忙しい。交対課は、予算がないため、実質は忙しくないが、担当課長により、来年以降の準備を行っている。
22. 自動車販売整備業・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比4.6%の1,409台、中古車は-8.7%の420台、合計では1.2%の1,829台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比-5.7%の1,017台、中古車-2.8%の350台、合計は-4.9%の1,367台である。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-1.5%の3,196台と微減。軽自動車の新車販売台数が好調で前年より約5%減少。先月が多かったため落ち着いた印象。登録自動車（普通車）は約1%増のため、トータルでは1.5%減。
23. 旅行業・12月は特に大きな変化はなかったようだ。
24. ビル管理・特に大きな変化はない。ただ近年、取引条件が変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・654円→H30年・766円）。H30年10月から新規改定額が適用されることとなり、これに伴うダメージが現れてくると思われる。

<建設業>

25. 建設業・徳島県発注工事は、引き続き前年に比較して増加しているが、地域的な偏りがある。
26. 電気工事業・新設住宅口数は175件であり、対前年比67.8%と減少した。
27. 板金工事業・仕事量は順調にあり、各事業所応援しあいながらこなしているようだ。
28. 鉄骨・鉄筋工事業・年末にかけて、若干忙しい状況になった。
29. 解体工事業・公共建物の解体工事については発注案件は少なく、民間戸建て住宅の空き家住宅及び住み替え住宅の解体工事が増加している。

<運輸業>

30. 貨物運送業・一般貨物輸送は、取扱業種により異なるが全般的に前年同月並みで推移。軽油単価は前月比 約6円強の値下がり で年初並みとなった。1月～12月平均で見ると前年比 約15円強の値上がりとなり、収益圧迫の要因となっている。
31. 貨物運送業・軽油価格はやや下がったが、まだ高値のままとなっている。先月に続き「売上高」が増加となっている。また、運賃(「販売価格」)もアップしたと答えた事業者も少なくない。軽油価格の上昇や、年末繁忙期におけるドライバー不足を理由に運賃転嫁が一部で成功していると思われる。しかし「収益状況」や「業界の景況」は好転しておらず、売上が上がっても利益が上がらない状況といえる。青果関係は台風の影響により芋やレンコンなどの出荷量がやや少なかった。宅配関係は、年末繁忙期における通販等が増加しており好調である。